

「個別の指導計画」は どう作成すればいいのですか？

- 特別支援教育コーディネーターを中心として、教育的支援を必要とする幼児について園内委員会を開き、検討する。



実態調べ記入例（表1）

- 特に「個別の指導計画」の作成が必要な幼児について、担任が主に作成する。



個別の指導計画記入例（表2）

- 「個別の指導計画」を園内委員会で検討し、共通理解する。



- 目標を設定し、日々の活動における支援や配慮事項をあげる。



- 日々の記録をつけ、評価をする。
- 保護者とともに学期ごとの評価をし、「個別の指導計画」を見直す。



幼児の指導と評価の記録例（表3）

- 3学期のまとめをして次年度へ引き継ぐ目標、変更する目標など検討をし、来年度の方針を決める。

平成*年度 個別の指導計画 < 実態調べ > (表1)

クラス ふりがな 幼児名	年保育 組 A	担任	
生年月日	平成 年 月 日 (歳)		

入園前の様子	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日
障害の状況 既往症等 発達検査の記録	広汎性発達障害 (a 小児科医師 b 先生)

項目	実 態 (年度当初)
生活面 ・食事、排泄、着脱 ・安全、清潔 ・物の片付け ・お手伝い等 ・次の活動への見通し	○身辺自立はできている。衣服の着脱などもできるが、次にすることが気になり雑になってしまう。 ○食事面では、牛乳が苦手であるが残さず飲もうとする。給食では三角食べができず、一つのを食べ終えてからでないとい次のものを食べようとしめない。握り箸で、小指を使って箸を動かす。食器は器の縁を上から握る。 ○当番活動は、意欲的に行い、給食当番やマイク当番を楽しみにしている。個人鉢のプチトマトの世話もかかさず行う。 ○教員の指示を理解し、行動に移すことができる。
運動・身体面 ・健康状態 ・全身運動、リズム	○年長になって喘息がでる。 ○運動面は活発で、高所に登ったり自転車に乗ったりするなど、様々な遊びを進んで行う。 ○ずっと同じ姿勢でいることは難しく、体のバランスを取りにくい。
作業面 ・えがく、つくる ・手指や用具等の操作性、器用さ ・持続性	○左利きである。手先はやや不器用な点があるが、はさみを使った作業は自分でできる。しかし、早く仕上げたいという気持ちのせいで、雑になることが多い。作品が完成するまで、最後まで取り組むことができる。 ○ひもをくぐるなどの細かい作業は、時間がかかるが一人でできる。
認知・言語面 ・自己決定の力 ・ことば、かず ・物へのかかわり	○話を集中して聞くことができない。 ○思ったことを相手に伝えようとするが自分の思いが強く、相手から聞かれたことに対して適切な返答をすることができない。 ○興味をもったことに対して、執着心がある。 ○虫に興味があり、自分で本を見たり観察したりする。
社会性 コミュニケーション面 ・情緒 ・集団参加 ・興味・関心、遊び ・人へのかかわり	○友達に対してのこだわりがあり、「○くんと一緒にいい。」と思うと、他児が誘いかけても「○くんと一緒にじゃなさいや！」と言ってしまうことがよくある。 ○自分の思い通りにならないと、人のせいにしてしまうことが多い。遊びの中で物の貸し借りが原因でトラブルになることがある。 ○話をしたり聞いたりするとき、相手の顔(目)を見ることができない。
その他 行動の特徴	○青色を好み、色を選ぶときはほとんど青色である。

保護者の願い 家庭の様子	○丁寧に衣服の着脱をし、登降園時の準備やロッカーの整理整頓を自分から進んで行えるようになってほしい。 ○教員の話を聞けるようになってほしい。 ○教員や友達のアドバイスを受け入れて、友達に譲ったり妥協したりできるようになってほしい。 ○体を使って戸外遊びをしてほしい。(巧技台、鉄棒、リレー、タイヤ跳びなど) ○箸、はさみ、鉛筆などの持ち方や使い方を指導してほしい。
-----------------	--